

はじめに

発達障害本来の症状や行動を一次障害と呼ぶなら、その一次障害をもって生まれた発達障害の子どもと、出生直後から続く養育環境との相互作用の中で形づくられてきたものが第二次障害

第一章 発達障害が引き起こす二次障害とは何か

1, 発達障害における二次障害をどうとらえるか

発達障害とは何か LD 運動能力障害 コミュニケーション障害 自閉症を含む広汎性発達障害 (PDD) ADHD 以上5つからなる障害群

脳機能の障害で ①発症は常に乳幼児期あるいは小児期である。

②中枢神経系の生物学的成熟に深く関係した機能発達の障害あるいは遅滞である。

③精神障害の多くを特徴づけている寛解や再発が見られない安定した経過である。

発達障害の横断面と縦断面

○横断面 図解 p 18

○縦断面 p 20

二次障害とは何か 第1 外在化障害 内的な怒りや葛藤を極端な反抗、暴力、家出、放浪、反社会的犯罪行為といった行動上の問題に託し、自己以外の対象に向けて表現する反抗挑戦性障害や行動障害などの精神障害

第2 内在化障害 怒りや葛藤を不安、気分の落ち込み、脅迫症状、対人恐怖、ひきこもりなどの情緒的問題に託し、自己の内的苦痛を特徴とする分離不安障害、社会不安障害、気分障害、強迫性障害などの精神障害

環境と子どもの相互作用 相互作用というとらえ方 二次障害を生み出すような環境と発達障害の子どもの関係性は双方向性の相互作用

「二次障害は環境から不適切な扱いをされた結果」単純な見方

二次障害はなぜ現れるか p 27の図 と p 29の図

二次障害の必然性 二次障害は一般的には発達障害の子どもが与えられた環境と渡り合いながら精一杯育ってきた過程で負った向こう傷の跡を意味する

必然性を認識することの意義 「二次障害は発達障害の一般的な側面」

二次障害のケアとは何か 連携に基づく総合的ケアシステムの必要性

サブシステム (障害福祉、教育、母子保険、医療) の総合化

外在化障害と内在化障害のケア ○外在化障害のケア ○内在化障害のケア

2, 幼児期・学童期における二次障害へのケア

発現に関与する環境要因 p 41 の絵

児童虐待のような育ちの外傷的影響は発達障害という大地に降る激しい雨のようなもの
かっつての大量な雨が、地下水脈を通じて状態像の表面に二次障害として湧出してくる
発達障害と反応性愛着障害 (RAD)

支援の困難さを予測させるものといえば、反応性愛着障害

抑制型 著しい愛着行動の欠如 脱抑制型 愛着行動の無分別の過剰性

ADHDの子ども くっつく接近 RADの子ども 拒まれた対象との復元困難

反抗挑戦性障害と行為障害 反抗の影に養育者への強い愛着が明らかに見て取れる

幼年年代の行為障害は反抗挑戦性障害に特有な心性が色濃い

分離不安障害 うつ病性障害の併存が多い

幼児期・学童期のケアの特徴 1, ケアの枠組みの重要性 2, 親を支える
3, 地域のリソースの活用

3, 思春期における二次障害のケア

思春期青年期という年代 p 55 の図

前思春期 母親の存在が気になってたまらなくなる 失敗 過剰な母親依存

思春期前期 仲間関係への過剰な没頭 失敗 家に戻る 街をさまよう

思春期後期 自分さがし 失敗 ひきこもり

広汎性発達障害の場合 仲間になれない 大人のサポートの必要

失敗 ひきこもり 反社会的行動

ADHDの場合 傷つくことで二次障害に発展 内在化障害を出現させる

ADHDにおける外在化障害の展開 反抗が最も非行に転換しやすい年代は思春期

P 65 は最悪の図

ADHDにおける内在化障害の展開 社会からのひきこもりを推進する要因となる障害

二次障害を乗り越えた事例 20代女性 軽傷のADHD 教師と対立

同級生からの孤立から二次障害に

精神科医との関係 母親との関係

第二章 現場の声から二次障害について考える

1, 学校ができる二次障害への支援

学校における対応の重要性 ケース1 小学校五年アスペルガー症候群

抗うつ剤の処方 登校時①できる部分を認める

②問題でないとき注目

③元気の時大人からブレーキ

失敗から特徴を理解する機会に結びつける

ケース2 小学校一年アスペルガー症候群

母親の登下校時の引率

ケース3 小学校一年 ADHD

①しかるを減らしほめるを増やす

②指示する場合注意を促す

③全体の指示を聞いてない場合個別に指示

対応 p 89 の図

個別のケースに学校全体で対応 例外的教員の過ち

一度決めたら続ける

2, 家庭でできる二次障害への対応

二次障害のルーツ 外在化障害も内在化障害も自己形成のゆがみの問題

自己認識の発達を困難にするADHDや高機能広汎性障害

子育ての悪循環 障害特性のパニックやかんしゃくはまちがった感覚を与えツッパリ

非行という二次障害につながる

ほめて育てる必要 そのためのペアトレーニング プログラム概要 p 103

ほめて親に愛情を取り戻させる

3, 不登校・ひきこもりと二次障害 男多く 平24. 5歳均

発達障害のケース 第一群 薬物療法が不可欠 31%

第二群 心理療法的アプローチの必要性プラス精神障害 33%

第三群 心理療法的アプローチ薬物療法無効 36%

本人のとらえ方をヒントに

ケース1 アスペルガー症候群+αの小学校高学年

母子分離面接 問題解決をともに考える 適応指導教室の利用

体験型学習を少人数クラスで実施 登校再開

ケース2 ひきこもりの20代男性

薬物療法と並行した心理療法が有効

面接での工夫 教え込むのではなくひもとき理解する

「傾聴する・共感する・伝える」心理療法的支援と「教える・考える・学ぶ」心理教育的支援の必要

家族支援 疲弊からの回復 家族支援グループへの誘い

4, 少年非行と二次障害

非行少年の中の「異端者」

仲間集団を扇動するキーマンの中に発達障害の兆候を見いだす確率は高い

単独非行も非行少年の異端者

彼らが置かれている状況 発達障害の子どもの支援はそのまま非行防止につながる

実態把握が遅れる理由 ①学業成績が良い場合 ②保護者の否認 ③家庭環境

ケアとサポートの実例 A君女子生徒へのわいせつ 広汎性発達障害

少年院での処遇 挑戦的行動の制御

社会性を育てる訓練 SSTの実施 社会性の未発達が起こす性的な逸脱 常識的あいさつ

相手の話を聞く 仲間に入る

失敗したとき謝る

結果を考える練習 「反省という」過去を考えさせるより将来を考えさせる 再非行を犯した場合と犯さない場合を想起させる

5, 医療における二次障害のケア

診療の対象となる子どもたち 不登校の半数が神経症 25%がADHDと広汎性発達障

児童精神科病棟でのCM 自閉症中学一年のA君 男児のグループに受け入れられる
外来での集団療法 18歳高機能自閉症のB君「慢性疲労に悩む若者の会」
ある女児の治療経過 Cさん中学三年 ADHD素行障害境界性パーソナリティ障害
自己評価を高める

第三章当事者が語る二次障害

1, 当事者アンケートから見えてくること

大人のADD&ADHDの会800人 女性65% 男性35% 30歳以上が8割
アンケートの結果 九割以上が二次障害の症状を自覚 子どものうちにケアされていれば
二次障害のケースから 「認知のゆがみ」 最大の危険性 命の危機

2, 資料集

- ・高校では見放されていたのか先生に責められなかったおかげで不登校にならずにすんだ
- ・援助が期待される教師
- ・教師に 否定的差別的に扱わないでほしい さらにものにされていじめに発展した